

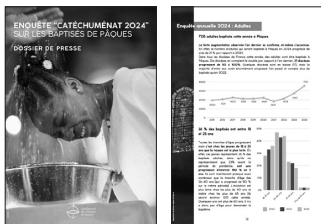
いったいフランスで何が!? : 京・江戸・博多、そして パリ : 28

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/7344021>

出版情報 : 福音宣教. 78 (6), pp.10-11, 2024-06-01. オリエンス宗教研究所
バージョン :
権利関係 :





フランス司教協議会発行の2024年の洗礼志願者に関する報告書の表紙（左写真）。全24頁からなる分析は大変興味深い。右写真は、2015年からの成人受洗者の数（上段）と過去3年間の年齢別の内訳（下段）を説明する頁。



京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

28 いったいフランスで何が!?

復活祭が終わった。私がパリに住んでいた頃には、毎週日曜日に全国のカトリック教会を順番に回ってミサを生中継するテレビ番組があった。クリスマスと復活祭にはヴァチカンからの中継もあった。地上波でそのような番組があるとはさすが「教会の長女」と感心したものだ。もう25年も前の話である。

いまはネットの時代。ヴァチカン・ニュースというサイト（日本語もある）のYouTubeでは、24時間サン・ピエトロ広場の中継を流しており、それが教皇ミサや謁見、お告げの祈りなどが行われると随時その中継に切り替わる。大抵のものには、英語や仏語、独語などの音声解説が入る（こちらは日本語はない）。

今年の聖週間、私はこの中継を視聴していた。時差があるからローマの夕方日本の真夜中である。昼夜逆転の三日間となってしまったが、復活徹夜祭のミサ中継では、教皇から洗礼と堅信と聖体の秘蹟を授けられた成人8人のうちに、日本人が1人おられるという嬉しい驚きにも接することができた。

そして日曜日。教皇ミサを仏語の解説付きで視聴していた私は、一瞬耳を疑った。アナウンサーが「昨夜ヴァチカンでは8人が受洗したが、フランスでは一万二千人が受洗した」と言ったのである。いくら「教会の長女」とはいえ、多すぎないだろうか。しかし彼女は、自信ありげに過去20年で最高の増加率だとか、とくに若い人が増えているとも言った。フランス司教協議会の発表だと言うので、ミサ後、同協議会のサイトに情報がないかを探してみた。

すぐに見つかった。3月27日、聖木曜日の前日に、洗礼志願者に関する統計と

分析が公表されていた。それによると、過去10年ほどは毎年4千人前後であった成人受洗者が昨年から急増しており、二〇二三年は前年比28%増の五、四六三人、そして今年は前年比30%増の七、一三五人だという。加えて中・高校生（小学生以下を含まず）の受洗者が約5千人いるそうで、合計で1万2千人が全104教区で復活徹夜祭に受洗予定とのこと。そして受洗者に占める18〜25歳の若者の割合が増えているのも近年の特徴らしく、今年は36%になるという。

ほかにも、都市部ではなく地方での増加が目立つことや、キリスト教家庭出身者の占める割合が減少傾向にある反面、無宗教家庭出身者が新受洗者の4分の1にまで増えていることなどが特徴として指摘されている。なぜ受洗したかとの質問に対する答えも興味深く、ヴェルサイユ教区で昨年受洗した男性は「きっかけは出会いだった」と言う。「話を聞いてくれる司祭、楽しそうで活発な小教区の人々。彼ら彼女らを通じて、開かれた教会、人を歓迎してくれる教会、多様性に富んだ教会の姿を見出した」と。また、教会の文化的・霊的資産（美しい建物や装飾、気品ある儀式・音楽や所作、荘厳な雰囲気や静謐さなど）に惹かれて教会の門を叩いたという成人が多いことにも、この報告書は注目している。

文化も言えば国民性も違うし、社会におけるキリスト教の位置も日仏で大いに異なることは言うまでもない。それでも向こうの教会が活気を取り戻しつつあるように見えるのは素直に嬉しい。どのような取り組みや工夫、努力がなされてきたのか、フランス人の話を聞いてみたくなった。



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。